

令和6年度 自己評価表（中間評価）

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1ランク上を目指す進学指導・就職指導を柱として、地域連携や探究学習、語学学習を推進し、基本的生活習慣の確立、部活動の活性化によって自律心と自己有用感を育み、主体性と創造性を伸ばす。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり 5 業務カイゼンへの取組
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初					中間評価結果(10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力, 判断力, 表現力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	・ICT活用について教員間の個人差がある。 ・生徒のChromebookが十分に利用されていない。	・組織的な授業改善 ・BYADに伴った更なるICT活用	・校内や教科内でGoogle Workspaceやスタディサプリの活用、ルーブリック評価等について情報共有や研修を行う。 ・Google ClassroomやCANVA等を活用し、生徒のChromebookの利用を増やす。	ICT活用は支援員と協働し個別最適化を図り、7月実施の授業アンケート結果は概ね「活用されている」だった。観点別評価に関して12月に県外講師を招聘し研修を実施する。	B	スタディサプリア及びルーブリックを用いた観点別評価について各教科で理解を深め、情報を共有する。
					クラス・教科・探究学習・学校行事等で連絡・調べ学習・ノート利用をする姿が見受けられ、GWに課題配信やチャット機能を利用する教科もあった。	B	Chromebookの利用について、教科内でも研修を行う。生徒には毎日充電して持って来るように粘り強く指導する。
			・各系列の特色化と資格取得の促進 ・資格試験合格率70%以上	・系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、合格に向けて支援する。	検定受験の促しや家庭学習用教材の提供等、合格に向けて支援した。前期の上位資格(1・2級)の合格率は、英語検定20%(前年比80%)、情報処理検定40%(同286%)、ビジネス文書実務検定60%(同158%)、保育検定71%(同79%)だった。情報科ではITパスポートを意識した授業を行った。	B	前期は再挑戦で資格試験に臨む者がいた。後期も、再受検者・上位級受検者の合格に向け支援したい。
				・学校独自事業を充実させ、特別支援学級と交流する。	学校独自事業について継続事業の見直しと新規企画の検討を行った。11月に商業科で社会人講師を招いたマナー講習を行う予定である。特別支援学級との交流は5月末に1回目を実施し、2回目を11月初めに行う予定である。	B	引き続き、事業の更なる充実を目的として、継続事業の見直しと新規事業の検討を行う。
			・学習における生徒の主体的な取組	・スタディサプリアを活用し、家庭学習習慣の定着を図る。 ・スタディサプリアの利用について指標化する。 ・学習時間調査で1日あたり2時間以上の家庭学習を目指す。 ・朝読書の徹底(朝読取組100%)	校外模試受験者(希望者受験)は2年次生21人、3年次生52人だった。6月実施の学習時間調査結果は全学年の平均が70分(前年度比62%)だった。スタディサプリアは、夏季休業中活用率が、1年次生67%、2年次生60%、3年次生15%だった。1・2年次生では夏休み明けテストの事前学習として配信し一定数の利用があったが、活用・家庭学習習慣が定着していない。3年次生はテキストの学習が中心である等、活用生徒は限定されているが活用できていた。朝読書は、指導は行っているが、100%の取組にはなっていない。	C	スタディサプリア・朝読書ともホームルームで継続して指導し、意識づけを行う。スタディサプリアは効果的な活用について情報も集約し検討する。朝読書は引き続き全生徒・全職員で取り組む。校外模試は生徒の進路に応じ、受験を促す。

2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	・あいさつをする生徒が増えつつある。 ・自転車通学生徒のヘルメット着用率は低い状況だが、着用する生徒は増えている。 ・遅刻者数は昨年、年度末にかけて減少した。特に安易な遅刻は減らすという意識が高まっている。 ・一部、服装を含め、校則に対して意識が高まらない生徒がいる。 ・SNSに起因する問題行動に対して、迅速に対応している。	・ルールを守りけじめある生活を送る。 ・欠席・遅刻者数が前年度比半減する。 ・安全意識が高まり、自転車ヘルメットの着用率が100%になるよう指導する。	・掃除、整理整頓の徹底と挨拶の励行 ・身だしなみ、礼儀に対する日常的な指導と声かけを行う。 ・デジタルシティズンシップ講演、ヘルメット着用啓発運動を実施する。 ・保護者及び地域のボランティアの方と連携し、ふれあい運動を行う。	掃除・整理整頓・身だしなみ・礼儀は、意識して取り組む生徒もいるが徹底できていない。デジタルシティズンシップ講演、ヘルメット着用啓発運動を実施したが、一部で不適切なSNS利用・自転車乗車があった。保護者及び地域のボランティアの方と連携しふれあい運動を行った。	C	掃除・整理整頓・挨拶・身だしなみ・ヘルメット着用について、学年団・生活指導部・保護者間で連携し、粘り強く指導する。全職員による声かけ場面を増やし、生徒との関わりを増やしていく。掃除について個別指導も検討する。生徒会と連携したあいさつ運動を継続して行う。
				・安易な欠席・遅刻を減らすことを求め、皆勤を奨励する。 ・遅刻確認票による遅刻者指導と保護者連絡を行う。	安易な欠席・遅刻を減らすことを指導している。全体として、9月末現在の欠席者は前年比92%、遅刻者は同84%である。遅刻は一部繰り返し指導を受ける生徒がいて大幅な減少には至っていない。	C	保護者と連携して継続的に指導する。引き続き、社会人としてのマナーを意識した指導を行う。
				・交通安全週間に自転車ヘルメットの着用指導を行う。 ・生徒会執行部によるあいさつ運動及びヘルメット着用の呼びかけを行う。	生徒会執行部と連携したあいさつ運動(4月・9月)と自転車ヘルメット着用指導(随時)を行った。自ら挨拶ができる生徒が増えつつあるが、自転車ヘルメットの着用率は50%程度である。	C	毎月の全体服装指導の中で遅刻者数が改善していくよう指導していく。生徒同士で呼びかける場面を更に設定する。フォームによる欠席連絡の改善点を検討する。引き続き、社会人としてのマナーや安心・安全を守る自転車運転を意識させる指導を行う。
		・朝読書で本を準備しない生徒や本を開いているだけの生徒がいる。 ・図書館の本を期限内に返却しない生徒がいる。 ・生徒情報を職員間で共有して支援に繋げている。 ・外部関係機関と連携を図っている。 ・学校生活アンケートで、自己肯定感が高い生徒が80%を超えている。	・本を自ら準備し、読書の大切さを認識させる。 ・毎月の延滞生徒を10名以下に減らす。	・生徒アンケートに基づいた店頭選書を実施する。 ・督促状を発行する前に各教室で声かけを行う。	生徒アンケートに基づいた店頭選書を行うことができた。延滞生徒に呼びかけを行ったが、4～9月で213人(前年度比115%)だった。	C	保護者と連携し、引き続き社会人としてのマナーを意識した指導を行う。
	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	・STAへの短期留学が再開した。	・生徒が校内外の様々な活動に積極的に取り組む。 ・学校生活をより良くするための活動を企画・実施する。 ・生徒が部活動に積極的に参加する。	・姉妹校との国際交流の継続 ・様々な活動に関する情報発信 ・生徒の活動を紹介することによる参加意欲の喚起 ・ボランティア活動の推進	姉妹校のセント・トーマス・アクワイナス高校(S TA)との交流が再開し相互交流を続ける体制が整った。香港翁祐中学校、韓国江原外国語高等学校との交流も受け入れ、生徒の交流機会を増やした。ボランティアは個人や部活動単位での参加もあった。	A	STAとの交流を継続する。韓国江原外国語高等学校との姉妹校提携に向けて準備を進める。交流した生徒には、他の生徒への還元 の機会を設ける。
				・生徒の委員会活動と連携したあいさつ運動を行う。学期末に全校で校内清掃を行う。	生徒の委員会活動と連携したあいさつ運動を行った。学期末に全校で校内清掃を行った。	A	引き続き、生徒の参加を呼びかけて実施する。
				・生徒会執行部を中心とした生徒会行事等の活動を充実させる。	生徒会執行部を中心に球技大会、学校祭(青雲祭・荒鷺祭)の企画・運営を行った。荒鷺祭では新種目や縦割りシステムを新たに取り入れ活動の充実を図った。各行事、事後アンケートは90%以上が満足したと回答した。部活動は加入の促進を図ったが全員加入に至っていない。	B	引き続き、生徒会行事の企画・運営をしっかりと行っていく。部活動に所属していない生徒や所属部活動を変更する生徒とこまめに面談を行う。
	○支援が必要な生徒への援助	・生徒会執行部が主体的に学校行事等の企画・運営をして活動することができている。	・生徒会執行部が主体的に学校行事等の企画・運営をして活動することができている。	・個別の面談や各種アンケートを通じて、生徒の困り感に寄り添う。 ・日常的に情報を共有し保護者と連携する。	・情報共有の会を4月および10月に実施した。教育相談アンケート、学校生活アンケートから困り感のある生徒に声をかけることができた。GoogleFormによる学校生活アンケートの提出率は86%だった。個別の面談や保護者との面談・連携をとおして情報を共有し、適切な支援に努めた。	B	迅速な情報共有を積極的に行い、早期解決に努める。アンケートの提出率が上がる方法を検討する。担任等と連絡を密に行い、保護者と面談する機会をもつ。多方面から情報を収集して対応する。
			・生徒情報を教員間で共有・把握し、適切な支援ができる。 ・豊かな人間関係を築き、生きる力を育む。	・特別支援教育に関する校内研修、情報共有、外部関係機関との連携により、適切な支援、対応を行う。	特別支援教育に関する校内研修、情報共有を予定通り実施した。支援が必要な生徒の保護者と面談を行い、適切な支援について確認した。外部機関(医療機関、市町村、児童相談所、障害者就業・生活支援センター等)と連携している。	A	引き続き、日常的かつ定期的に情報を共有・把握して対応する。
				・生徒が主体となり、活力のある人権学習を構築する。	日頃の人間関係づくりや人権学習において、相手の立場を考えた言動について考えを深めた。10月から全学年で人権教育LHRを実施している(10/17人権教育講演会)。	B	人権学習委員を主体的に活動させる。進路指導部や人権教育担当等、他分掌と学年団が連携し内容を検討する。

様式 3

3 自己実現のための進路指導の充実	○探究学習の充実	・「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に務めている。 ・「産業社会と人間」から「総合的な探究の時間」の系統性を検討している。 ・令和5年度は、大学進学38名(内国公立7名)の結果であり、就職29名(内公務員3名)であった。 ・特に就職希望者へのフォローが主目的である2年次生への進路ガイダンスおよび企業見学が実施できた。 ・岡山・広島・山口への先進校視察を実施し、スタディサブリ導入など視察を反映した新たな取り組みを実施した。 ・学習成果発表会で発表内容を更にブラッシュアップしていきたい。	・進路実現に向けて主体的に努力し学びに取り組む態度の育成 ・学習成果発表会の発表内容の充実	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化	「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」において、系統的な探究学習に向け、各種取組みを計画的に進めている。	B	引き続き、生徒の実態を把握し、進路指導・キャリア教育を意識した系統的な探究学習の展開を検討する。
	○キャリア教育の発展			・外部との連携および先進校、先進地域の手法を取り入れた探究活動の充実	夢蔵プロジェクトとの連携や他県の先進校への訪問を通して更なる手法について検討している。	B	地域のニーズや全国の多様な取組をもとに充実した探究活動について教職員間で意見を出し合う。
				・スタディサブリの活用による学習意欲の喚起と主体的な学習態度の育成 ・自らの成長を実感できる取り組みとして、キャリアパスポートを活用した進路指導を実施	スタディサブリ導入年として、学習意欲の喚起と主体的な学習態度の育成につながる取組を模索している。4月からの1人あたりの平均視聴時間は1年次生53分、2年次生131分、3年次生64分だった。キャリアパスポートは年度初めの個人面談で活用したほか、毎学期のLHRで記入し活動を振り返った。	C	生徒の実態を把握し、主体的な学習態度と学力の向上、進路指導・キャリア教育を意識した効果的な活用について情報を収集・共有し、利用者・視聴時間の増加を目指す。
				・学習成果発表会における外部評価に値する研究成果の充実	1月の学習成果発表会に向けて準備を進めている。	B	探究学習に関わる情報の共有と県内外の関係機関との連携を進める。
	○進路指導の充実	・大学進学40名以上(内国公立10名以上) ・教員の進路指導力の向上とスタディサブリを用いた学力向上 ・進路目標に対する具体的な取組(校外模試受験者の増加等)	・外部講師による公務員講座の充実と放課後学習会の実施	外部講師による公務員講座は本年度受講者がいないため実施していない。放課後学習会に参加する生徒は複数名いる。	B	生徒の実態を把握し、早期から進路指導・キャリア教育の充実を図る。	
			・進路ガイダンスの前倒しによる進路実現活動の早期化	進路ガイダンスを前倒しで実施したが、進路実現活動の早期化については個人差があった。	B	引き続き、全体計画及び生徒の実態を把握し、早期から進路指導・キャリア教育の充実を図る。	
			・各種職場体験の実施による確かな就職先選び ・担任によるきめ細かい面接指導と情報発信 ・探究学習の充実による進路保障 ・面接を提案型にする。	職場体験や探究学習での学びを進路選択や進路試験に生かした生徒がいた。担任や進路指導部を中心に提案型の進路指導を行った。	B	引き続き生徒の実態を把握し、進路保障につながる指導を全職員で行う。面接週間に限らず、日頃から進路に関する情報発信を行う。	

4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献		・地域の魅力を再確認し、地域の活性化に向けた具体的な行動を起こす生徒がいる。	・部活動における各種イベントの企画・開催と参加（ハイホット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス） ・部活動単位におけるボランティア活動等地域への参画	部活動における各種イベントの企画・開催は予定どおり実施し、新たな取組も検討した。部活動単位におけるボランティア活動等地域にも参画できた。	B	引き続き、生徒の活動を地域に発信し、地域のニーズにも積極的に応えていく。
			・文化芸術活動、系列での事業、総合的な探究の時間を通して地域のニーズに積極的に応える。	・系列事業、総合的な探究の時間における活動で地域貢献を促進（イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室、夢蔵プロジェクトとの連携）	系列事業、総合的な探究の時間における活動を予定どおり実施している。	B	地域への発信や新たな取組について、更に検討する。
			・自己有用感・自己肯定感を地域連携によって醸成する。	・ボランティア体験事業、中海清掃、皆生トライアスロンボランティア、ねんりんピックボランティアなどの情報を生徒に提示し、参加を呼び掛ける。	ボランティア体験事業36名（前年度比80％）、中海清掃28名（同112％）、皆生トライアスロンボランティア32名（同119％）のボランティア参加があった。今後はねんりんピックに関わるボランティア等を予定している。	A	引き続き、積極的な参加に向けてボランティア活動の理念を高めるための指導を行う。
	○積極的な社会参画と情報発信	・地域との連携により学校への信頼、期待がなされている。 ・ボランティア体験事業、中海清掃、皆生トライアスロンボランティアなどのボランティア活動に多くの生徒が参加をしている。 ・情報発信については、ホームページの更新を迅速に行うことができる。		・高校生出前キャリアガイダンス、夢プロジェクト等地域社会との繋がりによる生徒活動の活性化	米子市法勝寺川水辺の楽校推進協議会主催「水辺の楽校」、福生中学校主催「チャチャチャプログラム」への参加等、地域社会との繋がりによる生徒活動の活性化を図った。3年次生「ファッション造形」の授業では新たに尚徳小学校を訪問し、5年生家庭科の裁縫授業の支援を行った。12月に高校生出前キャリアガイダンスを実施する予定である。	B	引き続き、生徒の活動を地域に発信し、地域のニーズにも積極的に応えていく。
				・社会に繋がる教育活動を推進 ・ホームページの充実	「出かける体験入学～トトリハイスクールアドベンチャー～」に生徒会長・副会長が参加し、米子高等学校の魅力を発信した。マスコットキャラクターは中学校説明会や部活動単位で扱い、周知を心がけた。	B	学校行事だけでなく、地域の行事やイベントでマスコットキャラクターの活用を推進できるように計画する。今後は総合美術展でも活用予定である。
				・総合美術展、学習成果発表会の開催による情報発信	1月の総合美術展、学習成果発表会の開催に向けて準備を進めている。	B	1月の発表に向け、12月の段階で準備を徹底していく。
				・ホームページで総合学科の魅力（生徒の主體的な取組と成果）を発信 ・職員全員が1件以上の記事をUPする。	ホームページで学校行事や生徒の活躍をコンスタントに紹介した。職員の半数近くが記事をUPした。本年度は美術部がYouTubeで交通安全ワークショップでの作品制作の様子をUPする予定である。	B	ホームページへの記事の掲載について、1人1件以上掲載未達の人に、引き続き協力を仰ぐ。

5 業務カイゼンへの取組	○業務の見直しによる時間外業務の削減及びその他の業務時間の確保	・運動部外部指導者、部活動指導員、文化部活動地域専門指導者により顧問の時間外業務の削減、活動の支援等につながっている。 ・月末でのセルフチェックの呼びかけを実施し、業務時間の意識を高めている。	・時間外業務時間が前年度比10%減	・各分掌の業務内容・業務分担の見直し及び他分掌との連携 ・平日の電話応対時間の変更	各分掌の業務内容・業務分担の見直しと他分掌との連携を進めたほか、平日の電話応対時間を変更した。時間外業務時間は1学期は前年度を上回ったが少しずつ減少傾向にある。	B	引き続き、時間外業務削減に向けて、全職員が実態を把握し具体的な取組について検討する。
				・勤怠システムのセルフチェック、時間外勤務時間を翌日に入力することで意識付けを行う。 ・部活動顧問の時間外業務の削減(外部指導者、部活動指導員との連携) ・ICTの活用	管理職が継続してセルフチェックを呼びかけた。ICT活用や顧問間の連携等、部活動指導に関わる業務削減に努めているが、一部の部活動で、顧問の時間外業務時間がなかなか減らない。	B	時間外業務削減に向けて、全職員が実態を把握し具体的な取組について検討する。
	○声かけによるサポート	・共有ファイルの活用、教員業務支援員との連携の意識は高まりつつあるが、個人差があり、継続して取り組む必要がある。 ・令和5年度時間外業務実績平均17.2時間は、前年度の18.2時間を下回ったが、目標の前年度比10%減は達成できなかった。	・長時間勤務者の把握と対策 ・分掌業務の効率化 ・休暇を取得しやすい環境づくり	・共有ファイルの活用・ダブルチェック・連絡方法の工夫 ・教員業務支援員との連携	共有ファイルの整理・活用と連絡方法の工夫に取り組んだ。データ入力時のダブルチェックについて見直しを行った。休暇や出張に関することも含めて連絡を密にし、円滑な業務履行に努めている。教員業務支援員との連携を継続して行った。	B	使用頻度の高いフォルダを見つけやすくするよう、古いフォルダをまとめる。分掌を越えて必要な情報をアクセスしやすい場所に置く。引き続き連絡を密に行い、協力して業務にあたる。教員業務支援員に依頼する。時間外業務削減に向けて、全職員が実態を把握し具体的な取組について検討する。
				・業務に対する意識改革(長時間勤務者への声かけ) ・帰らーDAY(定時退勤日)、リフレッ週、対外業務停止日、年休取得推進月間の設定	業務の分業を行う分掌があった。管理職が長時間勤務者に声かけや資料配付を行った。帰らーDAY、リフレッ週、対外業務停止日、年休取得推進月間を可視化して設定し、年休取得の促進を図った。	B	時間外業務削減に向けて、全職員が実態を把握し具体的な取組について検討する。引き続き休暇を取得しやすい職場づくり(見通しを持った業務計画・声かけ)に努める。

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要